

医師も看護師も元患者も「松代病院守れ」と必死の訴え

県立松代病院を守る大集会（主催は松代病院を守る会）が15日、松代公民館で開催されました。会場の大会議室は参加者が廊下まであふれ、190人を超えました。上越市からは10数人参加しました。

主催者を代表して村山邦一副会長が、「親切的な病院があってよかった。（入院機能を無くすという）こんな大問題に黙っているわけにいかない」と挨拶。

続いて松代病院の医師、小堺浩一さん（イラスト左）が約1時間にわたり講演してくださいました。松代病院の入院機能を十日町病院に移し、無床診療所になった場合、病人がどうなるかを具体的に説明してくださいました。「介護している人、働いている方々を支えるのも病院の役割だ」として、ケアマネさん、特養ホーム、市役所職員などと入院患者や苦境に陥っている人たちを地域でどう救うかを継続して話し合ってきた事例もお聴きしました。患者の家の様子が浮かぶ



説明を聴きながら、地域密着型の医療とはこういうものかと感動しました。

さらに看護師さん（イラスト右）や患者サポートセンター職員さん（イラスト中）がどのように患者に寄り添って仕事をしてきたかを紹介しました。

馬場秀幸県議と牧田正樹県議が県議会の様子や今後のたたかひの展望などについて力強く発言。柿崎病院など松代と同じ地域病院で働く看護師さんなども松代病院の入院機能を守らなければ住民の命と健康を守れないと訴えました。

意見交換の場では、小堺医師に世話に

なった元患者さんなどが、「いま生きているのは先生のおかげだ。松代病院が無ければ死んでいた」などと次々発言、某地方議員の秘書さんも「父が松代に世話になった。私も頑張る」と涙を流して発言されました。

集会では、「無床診療所になったら夜は、松代では医師も看護師も、電話の対応もなくなる」「12月県議会での提案に道理はない…力をあわせてくい止めよう」「連帯して過疎地域の病院、地域医療を守り抜こう」と書かれたアピールを採択しました。すごい集会でした。

柿崎病院後援会理事会で上越地域医療再編説明

県福祉保健部の地域医療政策課の担当者が12日、柿崎病院後援会理事会で上越地域医療構想について説明しました。そこでは、医療需要の変化、病院経営の現状、地域全体で目指すべき姿などについて言及しました。

私からは、「県病院局が昨年3月まとめた病院経営強化プランでは、柿崎病院の今後目指すべき方向として、頸北の入院機能を維持すること、回復期・維持期で、軽傷救急患者を受け入れ、レスパイト入院にも対応するなど6項目書かれている。これを見て安心した。この計画を基本に据えて検討すべきだ」と訴えました。



【ダルマギク】キク科の多年草。漢字で「達磨菊」と書きます。大潟区の作品展で見かけました。花は明らかにキクの仲間ですが、特徴的なのは丸い葉です。ダルマの感じです。花期は10月中旬から12月中旬。花言葉は「打たれ強い」。波にさらされても耐える姿、転んでも転んでも立ち上がるダルマを思い浮かべます。写真は2日、大潟区にて。



市内では今年最後の敬老会だと思います。13日、吉川体育館で吉川区敬老会が開催されました。保育園児たちが元気にダンスを披露してくれました。



昨年、吉川区で誕生したコウノトリの子どもたちのうち2羽が上千原の田んぼ中の農道にいました。無事で良かったです。11日、私が撮影。

はしづめ法一の活動レポート

No.2228 2025.11.23

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

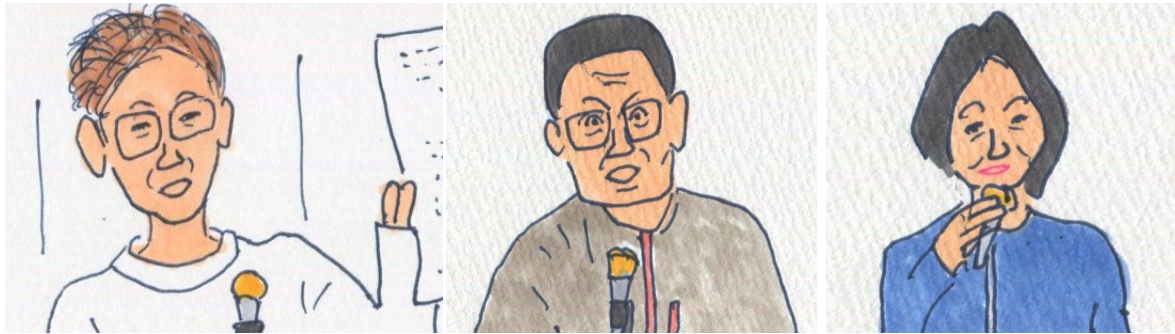
検索

医師も看護師も元患者も「松代病院守れ」と必死の訴え

県立松代病院を守る大集会（主催は松代病院を守る会）が15日、松代公民館で開催されました。会場の大会議室は参加者が廊下まであふれ、190人を超えました。上越市からは10数人参加しました。

主催者を代表して村山邦一副会長が、「親切的な病院があつてよかった。（入院機能を無くすという）こんな大問題に黙っているわけにいかない」と挨拶。

続いて松代病院の医師、小堺浩一さん（イラスト左）が約1時間にわたり講演してくださいました。松代病院の入院機能を十日町病院に移し、無床診療所になった場合、病人がどうなるかを具体的に説明してくださいました。「介護している人、働いている方々を支えるのも病院の役割だ」として、ケアマネさん、特養ホーム、市役所職員などと入院患者や苦境に陥っている人たちを地域でどう救うかを継続して話し合ってきた事例もお聴きしました。患者の家の様子が浮かぶ



説明を聴きながら、地域密着型の医療とはこういうものかと感動しました。

さらに看護師さん（イラスト右）や患者サポートセンター職員さん（イラスト中）がどのように患者に寄り添って仕事をしてきたかを紹介しました。

馬場秀幸県議と牧田正樹県議が県議会の様子や今後のたたかひの展望などについて力強く発言。柿崎病院など松代と同じ地域病院で働く看護師さんなども松代病院の入院機能を守らなければ住民の命と健康を守れないと訴えました。

意見交換の場では、小堺医師に世話に

なった元患者さんなどが、「いま生きているのは先生のおかげだ。松代病院が無ければ死んでいた」などと次々発言、某地方議員の秘書さんも「父が松代に世話になった。私も頑張る」と涙を流して発言されました。

集会では、「無床診療所になったら夜は、松代では医師も看護師も、電話の対応もなくなる」「12月県議会での提案に道理はない…力をあわせてくい止めよう」「連帯して過疎地域の病院、地域医療を守り抜こう」と書かれたアピールを採択しました。すごい集会でした。

柿崎病院後援会理事会で上越地域医療再編説明

県福祉保健部の地域医療政策課の担当者が12日、柿崎病院後援会理事会で上越地域医療構想について説明しました。そこでは、医療需要の変化、病院経営の現状、地域全体で目指すべき姿などについて言及しました。

私からは、「県病院局が昨年3月まとめた病院経営強化プランでは、柿崎病院の今後目指すべき方向として、頸北の入院機能を維持すること、回復期・維持期で、軽傷救急患者を受け入れ、レスパイト入院にも対応するなど6項目書かれている。これを見て安心した。この計画を基本に据えて検討すべきだ」と訴えました。



「コウノトリさん、ありがとね」
「かちやの歌」
「ランラン凍みわたり」

01.コウノトリさん、ありがとね
02.かちやの歌
03.ランラン凍みわたり

作詞:ほーせのどうちゃ+maco
作曲:maco

DVD

上の3曲が入ったCD（200円）、DVD（300円）ができました。ご希望の方は090・5392・1961です。



昨年、吉川区で誕生したコウノトリの子どもたちのうち2羽が上千原の田んぼ中の農道にいました。無事で良かったです。11日、私が撮影。

【ダルマガク】キク科の多年草。漢字で「達磨菊」と書きます。大潟区の作品展で見かけました。花は明らかにキクの仲間ですが、特徴的なのは丸い葉です。ダルマの感じです。花期は10月中旬から12月中旬。花言葉は「打たれ強い」。波にさらされても耐える姿、転んでも転んでも立ち上がるダルマを思い浮かべます。写真は2日、大潟区にて。

はしづめ法一の活動レポート

No.2228 2025.11.23

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <https://www.hosei.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
←こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八七五回

連結飛行

たぶん今年最後になるのでしょうね。先日、市役所に行く途中、下吉野から三田新田へと車を走らせているときでした。車の右側から左側へと連結した赤トンボが一組、二組とゆっくり飛んで行きました。

飛ぶ姿に気づき始めたのは東中島を走っている頃からです。車の前方をいくつかの赤トンボが通り過ぎていきました。「ああ、赤トンボだな」と思ったのですが、よく見たら、いずれも連結しています。前を飛ぶトンボのしっぽの先っぽが後ろのトンボの頭部を押さえて飛んでいました。

飛んでいる様子を見ると、みんな同じ方向へとめざしています。その逆を飛ぶとんぼは一匹もいませんでした。空中を飛ぶ姿は悠然としていて、何か一つの目標と意思を持っているような気がしました。

車の前方を飛んでいる赤トンボの数がぐんぐん増えて来たと感じたのは、旧小猿屋小学校のそばの信号機に近づいたころです。目の前を横切るトンボのペアの数が半端ではなかったのです。

ちよっと大げさに言うなら、右から左へと赤とんぼの群れが流れるように見えました。「こんなことはめったにない。これは写真に撮らなきゃ」そう思いながらどこかで車を止めて撮影しようと思いましたが、でも、後続の車は何台もいたし、車道が広くなっている場所がありません。次の信号機のところで止まったときには、すでに盛りは終わり、ペアの数はぐんと少なくなっていました。

この日は当初予想していた天気と違って、十月中旬の頃を思わせるような暖かな日となりました。ただ、午後からはだんだん雲が広がり、雨に変わっていききました。夕方になって、車のタイヤ交換など冬支度の仕事が一段落してから、改めて午前中に見た赤トンボの大群のことを思い出しました。

これまで赤トンボの大群を見た記憶があるのは、私が牛飼いをしていたころが最初でした。三十年ほど前、トラクターに乗って堆肥処理などの仕事をしていたとき、次から次へと赤トンボが湧いてくるように飛ぶ姿に感動したものです。

数年前にも赤トンボの大群と出合っています。暖かな午後の日差しを受けて、畑の方からトンボたちがやってきて、私の地元事務所の西側のコンクリートにとまりました。その数は数え切れませんでした。

でも、どちらのトンボも単独飛行であり、連結した赤トンボの大群が車の前方を大移動する姿とは違っていました。

市役所に向かうときに見た赤トンボ、「あの大群はいったい何だったのだろう」と思い、インターネットで検索しました。「赤トンボ 連結」と入力し検索した結果、出てきたのは新潟市医師会会報に掲載された「連結アキアカネの大移動」という文章です。

そこには一九七二年の秋、新潟の関谷浜で見たという無数の赤トンボのことが書いてありました。目の前を右から左へと飛ぶものすごい数の赤トンボ。飛んでいる赤トンボはすべて「つがい」であり、同じ間隔、同じ速度だとも書いてありました。まさに私が見た光景とほぼ同じです。

さらに検索していくと、トンボが連結することの意味も分かりました。連結したトンボ二匹の前にいるのはオスで、後ろのメスの頭や首を尾の先端ではさみ、交尾後、他のオスに横取りされないようにしているというのです。この連結は繁殖活動の一環だったのです。

繁殖活動なら、毎年繰り返し返されてきたはずですが、連結した赤トンボの大群に出合えるかどうかは時の運です。出合ったのは確かに偶然でしょう。でも懐かしく、何かいいことが起きそうな気がしました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月5日(水)	11月19日(水)
上越消防署	0.053	0.045
上越南消防署	0.040	0.050
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.047	0.057
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.050	0.053
名立分遣所	0.060	0.060
高士分遣所	0.047	0.050

桃園の「小さな作品展」、今回は柿崎地区公民館で開催

柿崎地区公民館で開催されていた桃園町内会の「小さな作品展」へ行ってきました。ここは毎年行くようにしている作品展です。顔なじみの人がけっこうおられることもあって、いつも作品鑑賞だけでなく交流も楽しんできました。

作品展はこれまでの体育館と違ってこじんまりしていましたが、絵手紙、絵画、彫刻など多様な作品が出展されていました。作者の頑張りがよく見えました。



柿崎福祉まつりにも参加

柿崎福祉まつりにも行ってきました。ここは小さな子どもさんからお年寄りまで大勢参加していて、建物の中も外も大賑わいでした。

スタッフのみなさんのなかにはお世話になった人が何人もおられ、その人たちに勧められるままに動き、「ぼっちゃ」や「ミニゴルフ」などの競技を楽しみました。イラストは防災グッズコーナーです。「学び」の多いまつりでした。



春よ来い

第八七五回

連結飛行

たぶん今年最後になるのでしょうか。先日、市役所に行く途中、下吉野から三田新田へと車を走らせているときでした。車の右側から左側へと連結した赤トンボが一組、二組とゆっくり飛んで行きました。

飛ぶ姿に気づき始めたのは東中島を走っている頃からです。車の前方をいくつかの赤トンボが通り過ぎていきました。「ああ、赤トンボだな」と思ったのですが、よく見たら、いずれも連結しています。前を飛ぶトンボのしっぽの先っぽが後ろのトンボの頭部を押さえて飛んでいました。

飛んでいる様子を見ると、みんな同じ方向へとめざしています。その逆を飛ぶとんぼは一匹もいませんでした。空中を飛ぶ姿は悠然としていて、何か一つの目標と意思を持っているような気がしました。

車の前方を飛んでいる赤トンボの数がぐんぐん増えて来たと感じたのは、旧小猿屋小学校のそばの信号機に近づいたころです。目の前を横切るトンボのペアの数が半端ではなかったのです。

ちよっと大げさに言うなら、右から左へと赤とんぼの群れが流れるように見えました。「こんなことはめったにない。これは写真に撮らなきゃ」そう思いながらどこかで車を止めて撮影しようと思いましたが、でも、後続の車は何台もいたし、車道が広くなっている場所がありません。次の信号機のところで止まったときには、すでに盛りは終わり、ペアの数はぐんと少なくなっていました。

この日は当初予想していた天気と違って、十月中旬の頃を思わせるような暖かな日となりました。ただ、午後からはだんだん雲が広がり、雨に変わっていききました。

夕方になって、車のタイヤ交換など冬支度の仕事が一段落してから、改めて午前中に見た赤トンボの大群のことを思い出しました。

これまで赤トンボの大群を見た記憶があるのは、私が牛飼いをしていたころが最初でした。三十年ほど前、トラクターに乗って堆肥処理などの仕事をしていたとき、次から次へと赤トンボが湧いてくるように飛ぶ姿に感動したものです。

数年前にも赤トンボの大群と出合っています。暖かな午後の日差しを受けて、畑の方からトンボたちがやってきて、私の地元事務所西側のコンクリートにとまりました。その数は数え切れませんでした。

でも、どちらのトンボも単独飛行であり、連結した赤トンボの大群が車の前方を大移動する姿とは違っていました。

市役所に向かうときに見た赤トンボ、「あの大群はいったい何だったのだろう」と思い、インターネットで検索しました。「赤トンボ 連結」と入力し検索した結果、出てきたのは新潟市医師会会報に掲載された「連結アキアカネの大移動」という文章です。

そこには一九七二年の秋、新潟の関谷浜で見たという無数の赤トンボのことが書いてありました。目の前を右から左へと飛ぶものすごい数の赤トンボ。飛んでいる赤トンボはすべて「つがい」であり、同じ間隔、同じ速度だとも書いてありました。まさに私が見た光景とほぼ同じです。

さらに検索していくと、トンボが連結することの意味も分かりました。連結したトンボ二匹の前にいるのはオスで、後ろのメスの頭や首を尾の先端ではさみ、交尾後、他のオスに横取りされないようにしているというのです。この連結は繁殖活動の一環だったのです。

繁殖活動なら、毎年繰り返し返されてきたはずですが、連結した赤トンボの大群に出合えるかどうかは時の運です。出合ったのは確かに偶然でしょう。でも懐かしく、何かいいことが起きそうな気がしました。

ニュースフラッシュ

東京吉川会、30回目の総会開催

8日は東京吉川会総会でした。私は東京吉川会の設立のときから20数回参加してきました。多くの郷人会が解散する中で、頑張っているみなさんに感謝です。

総会では常山正樹会長の挨拶、岩野美子吉川区総合事務所長の挨拶に続いて、私からも吉川区における熊出没状況、この20年間の人

口の推移、稲作農家の現状、学校の児童生徒数の現状、全国的にも注目された吉川区の中山間地農業、コウノトリのその後の動きなどについて報告させていただきました。みなさん、関心を持って聴いてくださいました。

イラストは30回目を記念し描きました。前列の一番右は常山会長。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月5日(水)	11月19日(水)
上越消防署	0.053	0.045
上越南消防署	0.040	0.050
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.047	0.057
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.050	0.053
名立分遣所	0.060	0.060
高士分遣所	0.047	0.050